平成２７年度　法人本部　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

法人として初めて倉吉市に施設を開設した。（平成 27 年 5 月 1 日開設／老人デイサービスセンター）
一方で訪問看護事業を休止した。（平成 28 年 3 月 31 日）
引き続き安定的で健全な法人経営が出来るよう努めていく。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．地域に信頼される法人として新制度に対応できるサービスを提供する
・介護保険制度・介護報酬の改正について、研修会を開催し職員の理解に努めた。

２．能力向上と次世代の職員育成を行う
・キャリアに応じて施設内研修、施設外研修に参加した。

３．健全で安定的な経営と法令を順守した経営を行う
・定款をはじめとする各種規則・規程の見直しを行い、法人ルールの再確認を行った。（就業規則、給与規程、運営規程等）

４．地域貢献の推進と地域包括ケアシステムへの対応を行う
・地域貢献委員会及び各部門が関係機関と連携を図り対応した。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．新計画：第三期３カ年計画について全職員が認識を共有し取り組む
・主任・リーダー会を中心に各委員会や各部署で第三期３カ年計画に沿って取り組んだ。

２．法人理念と苑是に基づいたサービスの向上（接遇の向上と徹底）
・12 月全体会研修「接遇向上」を実施した。69 名参加
・あいさつ運動の実施（アンケート、標語を毎月更新、パトロールチェックを毎月実施）
アンケート結果（評価）：①あいさつ（笑顔）47%　②あいさつ（先に）42%
③言葉遣い 40%　④身だしなみ 32%

３．健全経営の推進
・業務分担については、サービス別検討会や予算会議の中で協議を行ったり、実態に合わせて見直しを行った。
・法人情報の公開は全国経営協の会員法人情報ホームページや当法人ホームページ上で行い情報更新した。

４．地域ニーズに基づく新規事業について検討する
・医療法人清生会が新設された有料老人ホーム（如心庵）の隣に老人デイサービスセンター（デイサービスセンター三喜苑西郷）を開設した。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．個々の資質向上と次世代の職員育成
・各種研修会を毎月実施した。（全体会：平均 63 名参加（前年度 73 名）／職員研修：平均 19 名参加（前年度 19 名）／施設外研修延べ 258 名参加（前年度 325 名））
・エルダー制度の１ケ月評価は全職員が約１ケ月で修了し、各専門の評価も修了している。
中途採用者職員についてはそれぞれ評価途中。

２．専門性の向上による資格取得の推進
・平成２７年度資格取得（合格者）・修了者状況
介護支援専門員 1 名、介護福祉士 2 名、認知症実践者研修 6 名、認知症リーダー研修 3 名、リーダー育成研修 2 名、社会福祉主事 3 名、認定特定行為業務従事者研修 3 名、防火管理者 1 名

３．経営管理における業務改善・見直し

・法人本部をはじめ、ケアハウス（書面）・賀茂保育園で指導監査を受けた。指摘事項については改善報告を提出した。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域貢献の推進

・全体会研修「地域における公益的な活動」を開催した。参加者 65 名

・11 月 11 日「介護の日」に啓発活動を行った。（ポスター掲示等）

・介護予防教室を５回開催した。（前年度７回）

・施設見学の受入 128 名（内訳：学校３、団体２、その他）

・第５回論語三代を１１月２３日に開催、250 名の参加があった。（前年度 200 名）

２．情報開示

・ホームページ「福生会ニュース」を立ち上げた。

・機関紙アンケートを実施した。

３．地域包括ケアシステムの推進

・三喜苑夏まつりを開催した。200 名参加。（雨天のため屋内での実施）

・賀茂保育園－三喜苑の交流会を実施した。（年間５回）

・みささこども園－三喜苑の交流会を実施した。（年間３回）

４．防災意識の向上

・今年度もグループホーム仁の里及びサテライトデイサービスにて三朝町消防団指導の下、各種訓練を実施した。

Ⅵ　業務目標の評価

１．専門職員の獲得及び人材の定着

・専門職の採用…理学療法士１名、看護師１名、介護福祉士３名

・平成 28 年新卒者採用…2 名（介護福祉士１名、作業療法士１名）

・新規採用時職員研修を７回（対象 13 名）実施　（前年度：４回 11 名）

・感動作文・笑顔フォトコンテストに 68 点応募あった。（前年度 46 点）
今年度は職員による投票を実施した。参加率 81％

２．法人全体の利益率　目標 3％

・法人全体の利益率は 9.32％だった。（前年度 8.86％）

３．効果的・計画的な経営管理と資金活用

・サービス別検討会は２事業所のみの実施。全体的に計画的な取り組みが不充分だった。

・各種補助金等を活用した。①鳥取県補助金　結核健診（特養利用者 68 名受診）に係る費用の一部を補助　②NHK 歳末たすけあい助成　ケアハウスでゲーム機（Wii）購入 ③日本財団助成　三喜苑通所介護事業所で送迎用車両購入（ﾎﾝﾀﾞ：ｽﾃｯﾌﾟﾜｺﾞﾝ）

４．リスクマネジメントの充実

・訓練回数　避難訓練２回（日中１回・夜間１回）
夜間想定通報訓練２回（内、１回は抜き打ち）

・労働災害はゼロ。

・三喜苑で点検のための完全停電実施。（70 分間）
防災監視、消防・通信機器、自家用発電機等の総合点検を実施した。

５．職員の処遇改善

・一般事業主行動計画（時限立法）の１０年延長決定を受け計画延長（平成 37 年 3 月 31 日迄）した。衛生委員会を中心に職員への周知を図った。

・職員の定期健康診断を実施した。（128 名受診。12 月に結果報告した）

・介護職員処遇改善加算と新たに保育所職員処遇改善等加算を活用（申請）し、賃金等の処遇改善を実施した。

平成27年度　役員会等実施状況

日　付	会議名（開催時間）	主 な 議 案
平成27年5月14日	監査会　9:00～	○平成26年度事業の監査
平成27年5月24日	第76回理事会　14:00～ 第66回評議員会　10:00～	○平成26年度　各事業　事業報告及び収支決算について ○定款の一部改正について ○理事の交代について ○デイサービスセンター三喜苑西郷（新規事業） 事業経過、収支内訳、基本財産担保提供承認、抵当権設定登記等について ○運営規程の一部改正について（職員配置） ○介護職員処遇改善加算について（報告） ○第二期3ヵ年計画の評価及び第三期3ヵ年計画の策定について
平成27年11月15日	第77回理事会　14:00～ 第67回評議員会　10:00～	○平成27年度　各事業　追加補正予算について ○監事の交代について ○理事の交代について ○評議員の交代について ○理事・監事・相談役（役員）の重任等について ○勤勉手当の支給月数について ○役職員給与規程の一部改正について ○運営規程の一部改正について ○軽費老人ホーム事務費（補助基準額）単価について（報告） ○特定個人情報等に関する基本方針等の策定ついて（報告） ○特別養護老人ホーム三朝温泉三喜苑診療所立入調査について（報告） ○平成28年度職員採用試験の実施について（報告） ○平成27年度統計功績者の表彰について（通知）
平成28年3月20日	第78回理事会　14:00～ 第68回評議員会　10:00～	○平成27年度　各事業　追加補正予算について ○運営規程（三喜苑西郷）の一部改正について ○訪問看護ステーションみささ事業の休止について ○三朝町立賀茂保育園園長（施設の長）交代について ○平成28年度　各事業　事業計画及び予算について ○平成28年度　訪問看護ステーション会計　予算について ○就業規則の一部改正について ○役職員給与規程の一部改正について ○平成27年度老人福祉施設指導監査の実施結果について（通知・回答） （ケアハウス） ○平成27年度児童福祉行政指導監査の実施結果について（通知・回答） （賀茂保育園）
平成28年3月16日	社会福祉法人研修会　13:00～ （役職員向け研修）	○「社会福祉法の一部改正案の現況、改正の概要及び各社会福祉法人に求められる課題」 ○「平成28年度福祉保健課の施策について」（行政説明） （役員参加者：3名）

平成２７年度 指定介護老人福祉施設 事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

胃瘻の方は減っており、食事介助の必要な方が増えてきている。食事介助の技術や姿勢、食べやすい食事の提供が求められている。入院される方も多く、体調変化の早期発見、早期対応が重要となってきた。職員も専門的な知識を持って対応すること、各職種が連携し協働していくことがより重要となってきた。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．尊厳を守り、楽しみのある生活を提供する

・レクリエーション、外出行事を行った。

２．安全かつ安心で快適な生活を提供する

・事故はあったが、多職種が話し合い対策を行った。

３．各職種の連携と協働を強化し、チームワークのよい職場づくりを目指す

・なんでも言い合える職場環境を作るよう、元気で明るい挨拶に努めた。多職種が協力し合って業務にあたった。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．安全な生活を提供する

・スライディングボード、電動ベッド等の福祉用具を活用した移動介助方法に統一した。

２．楽しみのある生活を提供する

・見た目もよく食べやすい食事の提供を目指し改善した。

・月２回調理活動を実施して利用者の参加や楽しみの提供を行い、その様子を壁新聞にして皆様に見ていただいた。

・季節毎に行事を行ったり、故郷訪問を実施し、個別の買い物等を行った。（外出された方は63%）

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．人材育成と強化

・認知症実践者研修２名参加　（総数３名）

・認知症リーダー研修２名参加（総数７名）

・認定特定行為業務従事者認定者２名（総数 11 名）

・介護福祉士２名合格（総数 19 名）

・介護福祉士実務者研修７名修了（総数７名）

・年７回、テーマを決めて、勉強会を行った。参加できない職員もレポート提出して勉強した。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域、家族との交流と広報活動

・誕生会１７家族参加。家族会行事にも多数家族に参加していただいた。

・故郷訪問２３名実施

・三朝町立西小学校との交流会の事前授業で認知症高齢者とのかかわりについて出前授業を行った。

・年間面会者数 4,557 名　一日平均 12 名来苑

Ⅵ　業務目標の評価

１．業務改善への取り組み

・入浴体制の変更や、看護業務との連携に伴う時間調整、業務の流れを変えて勤務を行うなど工夫した。

・マニュアルの見直しを行った。

２．安定的経営

・入院者数は平均５．６人/日であった。（２６年度平均入院者数４．１人／日）

・次の入所予定の方は事前に様子を伺いに行くようにした。

＜平成２７年度入所者状況＞	【参考：平成２６年度】
平均要介護度：　４．１	【４．０】
平均入院者数：　５．６人／日	【４．１人／日】
退 所 者 数：　２０名（看取り３名）	【１１名（看取り１名）】
待 機 者 数：　１１７名	【１２０名】

平成２７年度　ケアハウス　事業報告

Ⅰ　平成27年度の状況

入居者状況は、加齢に伴い心身機能の低下や認知症状の出現が見られるようになっている。今年度は４名の退居者があった。内訳は、入院が長期となり、ケアハウスへ帰ることが難しくなられた方が１名、骨折で入院しケアハウスでの生活が困難となり他の施設に移られた方が１名、認知機能の低下によりグループホームへ移られた方が１名、体調不良による入院をきっかけに退居された方が１名（もともと短期間の入居予定者）であった。

現在、病院退院後の入居が増加しており、入居後、介護保険サービスを利用して生活されている入居者も増え、ますます入居者の健康管理、状態観察及び心身機能の活性化が必要であると感じている。

（現況　自立:６名、要支援１:１名、要支援２:４名、要介護１:２名、要介護２:２名）

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．ご利用者、ご家族に信頼される施設サービスを目指す

健康管理について、ご利用者の体調変化や日頃の様子などに気を配り、各関係機関や家族へ報告し連携を図りながら健康管理に努めた。また、日常訓練やレクリエーションを継続実施し、心身機能の維持を図り生活の安定に努めた。

２．職員の資質向上

資格取得の為の自己学習や、認知症状のある方を早期に発見するための勉強会を定期的に開催し、資質向上に努めた。（年４回実施）

３．安定的事業運営を図る

空室（空き部屋）ができないよう定期的に待機者へ連絡し、現状と入居意向の確認を行ったが、すぐの入居を望まれていない待機者が多かった。その事からも、次の入居者や家族との連絡をより密にしていく必要がある。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．サービスの質の向上

・レクリエーションでは、今までのプログラムに追加して、認知症予防を目的としたもの（思いだしトレーニング、早口言葉等）も取り入れた。
（状況：参加率６２％／前年度５４％）

・ミニ講座の開催（年４回：防災、栄養、リハビリ、認知症予防）
興味を持って質問されるなど、熱心に聴かれていた。
（状況：参加率 100％／毎回全員参加）

・利用者同士のコミュニケーションの輪が拡がる取り組み（リズムクラブ参加、脳トレやパズルの実施）を通して、談話室でご利用者同士が会話する機会が増えた。また、互いに声を掛けあう姿も多く見られるようになり、そんな会話の中から「○○が食べたい」との要望もあり、グルメツアー（ご当地ラーメン、うどん）を２回実施。みんなで一緒に外食（外出）することで、生活の活気とコミュニケーション向上にもつながった。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員の資質向上

・中国地区老人福祉施設研修大会に発表者として連続出場。（開催地：広島市）
発表テーマ「声を出すことを楽しむ～みんなで楽しく声でコミュニケーション」

・認知症についての職員勉強会を実施、認知症予防に効果的なレクリエーションの取り組みにつなげた。（年４回実施）

・接遇面では、接遇チェック表を用いて定期的に評価を行った。毎朝、あいさつ標語を復唱し意識を高めた。
（利用者アンケート：「職員のあいさつ」⇒良い 75%の評価（前年度 77%））

Ⅴ　地域目標の評価

1. 地域の学校や住民関係機関等との連携や交流を図る

・リズムクラブで三朝町芸能文化祭に出演（８名参加）

・徳本子ども会とちまき作りで交流した。その後、子ども達との交流が続いている。
（参加者：入居者７名、子ども会７名）

・運動会見学や保育園交流会に参加し、子どもたちとふれあいを楽しまれた。
（平成 27 年度参加状況：10 回参加／延べ 71 名参加）

Ⅵ　業務目標の評価

1. 待機者を確保し、満床を維持する

・定期的に待機者に連絡を取り、待機者の状況把握に努めたが、１月、２月と続けて１名減となった。（季節的（冬季）なこともあり、入居手続きに時間がかかった）

・先のことを考え早めに申し込みをされている方が多く、すぐの入居を望まれていない待機者が多いのが現状である。（待機者９名）

・ホームページに空き状況を掲載したり、ケアハウスのチラシを作り地域包括支援センターや居宅介護支援事業所、医療機関の地域連携室等にも配布し宣伝に努めたが問い合わせは多数あったものの、すぐの入居にはつながらなかった。

各月初日の入居者状況（定員：15 人）

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
人数（人）	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	15

平成２７年度　指定通所介護事業　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

通所利用を開始された新規利用者は４３名で昨年度（４５名）とほぼ同数であったが、ご家族と連携を取りながらご自宅での生活がよりよくなるよう利用者を支えてきた。

個別レクリエーションでは身体全体を使用したものに取り組み、機能訓練では自宅での困りごとに対して訓練や指導を行い利用者の状態維持、改善につながっている。

職員体制を整備しながら各種加算の取得に取り組み収入増につながった。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．在宅生活継続支援を家族とともに行う

・在宅生活で困っていること等、身体面、精神面からの支援をご家族と共に行った。

２．利用者主体のケアの実施

・利用者の思いを聴き、寄り添うケアに努めた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．個別ケアの充実

・作業療法士用アンケートを実施、個々にあったメニューを選択できるよう活動内容を出来るだけ多く設け自ら選んでもらうよう声掛けしていった。(選択メニューは２～５種類)

・家族に活動内容を写真等でお知らせし、自宅でも取り組みを続けてもらえるように声掛けをしていった。(連絡ノートの活用)

・認知症の方には専門に学んできた職員が個別に対応した。

２．機能訓練の充実を図る

・利用者、家族に在宅生活での動作についての不安等聞き取りし、個別リハビリを実施した。(年間４５件)

・利用日のみでなく毎日続けられる、自宅でできる簡単な訓練を提供することで機能維持に繋がった。（訓練実施者４３名のうち要介護度の維持者２５名・改善者４名）

３．利用者、家族との連携を図る

・「家族の会」を今年度は在宅部署と一緒になって実施。町内地域に出かけ公民館等をお借りし実施した。（６回開催・延べ参加人数４１名）地域協議会会長さん、民生委員さんに呼びかけをお願いした。地域行事の把握で参加者増に繋げていくためどうするべきかが課題である。

・ケアマネジャーには小さなことでも連携し、利用者ご家族が困られないようにした。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員研修会の実施

・職員を講師に接遇や移乗介助、感染症、認知症等をミニ研修会で取り組んだ。それらを学ぶことで振り返りや新たな知識を身に付けることが出来た。(年間６回実施)

２．情報交換会の定期的実施

・他職種との情報交換を行うことで、今後に活かすことにつなげた。（年２回実施）

３．外部レクリエーション研修参加

・外部のレクリエーション研修に年間通し職員が参加した。施設内のレクリエーション実施時には指導者に評価していただいた。(年９回参加)

Ⅴ　地域目標の評価

１．町内の老人クラブに出向き出前レクリエーション、介護教室等を行う

・地域に出かけ行ったものが６回、老人クラブで２回実施。(延べ５９名参加）三喜苑を知っていただく良い機会になった。地域交流室活用や三喜苑のサービス利用についてお話しさせていただいた。また、認知症や排せつに関することも介護教室の内容として入れたため好評を得た。

２．地域交流会への参加

・地域交流会には必ず職員が１名以上参加するようにした。(年間５回実施：８名参加)

・町内福祉事業所等の集まりである「三朝をなんとかしよう会」の実施月に職員へ参加を呼びかけた。(年間４回実施：９名参加)

Ⅵ　業務目標の評価

１．収入月額７２０万円以上を目標とする

・利用者増で月平均７８３万円となった。

２．業務の見直しを行う

・利用者予定表を転記しやすくしたことにより業務の簡略化が出来た。あらゆる記録物について簡略化した。

・定期的に必要な部分の整理整頓を実施した。

３．自動車の接触事故をなくす

・新規利用者については写真等で送迎方法の確認をし、地図を見やすくファイリングした。

・夕方のミーティング時に運転手（総務課）に参加してもらい運転に関する意見交換を行った。

４．経費削減

・職員同志が協力しあい残業のないようにした。

・消耗品の節約について心がけた。

平成２７年度デイサービス月別利用人数　　（単位：人）

月	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合　計
4	63	149	175	212	216	45	59	919
5	64	146	160	217	209	64	51	911
6	61	171	156	269	221	83	55	1,016
7	58	169	163	256	220	97	53	1,016
8	43	155	128	220	202	96	40	884
9	50	183	129	192	253	62	13	882
10	33	182	172	203	245	73	13	921
11	21	176	183	191	245	68	7	891
12	15	186	159	186	263	70	8	887
1	16	185	140	172	257	51	4	825
2	21	202	161	175	262	51	4	876
3	26	214	195	191	245	56	4	931
合計	471	2,118	1,921	2,484	2,838	816	311	10,959

備考：平成２６年度利用人数：１０，３４５人／年間（平成２６年度との比較：６１４人増）

平均利用人数　平成２６年度：33.26 人/日　平成２７年度：35.23 人/日

平成２７年度 指定短期入所生活介護事業 事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

平成２７年度介護報酬改定で厚生労働省は地域包括ケアシステムの推進と中重度の要介護者への更なる強化を推進している。短期入所に関る内容として、緊急時の円滑な受入れが促進されるよう、緊急時受け入れの基準が改正され、機能訓練の充実や重度者への対応強化が求められている。

又、基本報酬の見直しと長期利用者の基本報酬適正化が実施された。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．緊急時と重度者の受け入れ体制の強化

・緊急時と重度者の受け入れを図った。

２．ショート計画と機能訓練の充実

・ショート計画の作成と機能訓練の充実を図った。

３．基本報酬の見直しと長期利用者の基本報酬適正化に対する対応

・基本報酬の見直しと長期利用者の基本報酬適正化に対する対応を実施した。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．緊急時と重度者の受け入れ体制の強化

・緊急利用時の受け入れの実施を実施した。加算対象 49 日

・医療的な重度者の受け入れを実施した。加算対象 1,132 日

２．家族及び居宅ケアマネジャーとの連携の強化

・ショート計画の作成、充実を図った。

・機能訓練計画の作成及び利用者の居宅を訪問し、説明と評価を実施した。加算対象 16 日

Ⅳ　業務目標の評価

１．安定的経営

・稼働率目標：平均１６．０名／日　→　実績１６．６名／日

目標は達成出来たが介護老人福祉施設の入院者による空床の効果的な活用が不充分だった。

利用者増につなげる更なる工夫が必要である。

	平成 26 年度	平成 27 年度	差
要支援１	0	14	14
要支援２	41	117	76
要介護１	204	334	130
要介護２	290	670	380
要介護３	1,993	1,603	△390
要介護４	2,262	2,764	502
要介護５	1,427	587	△840
合　計	6,217	6,089	△128
平均介護度	3.7	3.4	△0.3
１日平均人数	17	16.6	△0.4
１人１日収入	11,297	11,008	△289

平成２７年度　グループホーム　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

入居利用者の情報収集をしっかり行い、一人ひとりにあったケアを提供した。入居によりなじみの関係もでき、心身が落ち着き症状を遅らせることができている。又、職員も研修に参加し資質、能力向上につなげていった。地域に出かけ利用者を知っていただくことで、利用者及び職員も地域とのつながりを深めることができた。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．尊厳を大切にし、ゆったりと過ごせる温かい家庭的な環境を提供するとともに、利用者一人ひとりの立場に立ったその人が望む生活を支援する

・尊厳を大切にし、ご利用者のペースに合わせ、興味のあるもの、特技を活かした歌、散歩、畑仕事等個人個人の希望に添った関わりを実施した。又、調理活動を通して、味付けをしながら家庭の延長のような生活を提供し、和やかに過ごして頂いた。

２．地域と連携を深め、触れ合いを大切にし、住み慣れた地域での社会参加を支援する

・総事（山田区）、地域行事（町芸能祭、とんどさん）、地域の方との芋掘り、地域交流会等を通して職員のみでなく、ご利用者も山田地区の方との交流が出来た。
又、畑を介して野菜作りの指導をいただくなど、連携を深めることにつながった。
○地域交流会年５回開催（延べ参加人数：１３人）
○とんどさん、奉仕作業、町芸能祭　収穫祭（芋掘り）（延べ参加人数：１５人）

Ⅲ　サービス目標の評価

１．利用者の主体性に配慮し、「自分らしい生き方・生活」の実現に向けた支援を行なう事で達成感、満足度の向上を目指す

・歌クラブを通して夏祭り、地域交流会、月行事での発表等でご家族や地域の方へ披露出来たことが自信となり、達成感にもつながった。
又、個々の主体性にも配慮し、日々の様子を見ながら手芸や、体操（心身）の提供を行った。

２．心身ともにきめ細やかな対応により健康を維持し、自らの健康増進に取り組めるような支援の実施

・日課の体操、笑い、声を出す事（歌会・嚥下体操）等職員と一緒に出来るものや、自主的な歩行訓練など生活の一部として継続していくことにつなげた。

３．病気への早期対応と予防の充実を図る

・かかりつけ医、訪問看護師との連携・相談により早期受診につながるよう心がけた。入居者も高齢になられ、急変されるリスクも高くなったため、日々の健康観察や状態把握を積極的に行った。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．認知症ケアの専門性を高め、研修等により互いに学ぶ機会を設ける（1人１研修以上の外部研修の参加・自己研鑽研修の参加）

・認知症介護実践リーダー研修、実践者研修各１名ずつ参加。
その他、喀痰吸引研修、認知症研修、記録、褥瘡、移乗、口腔ケア等ほぼ全員が外部研修へも参加。
実践者研修等通して、伝達研修を行いチームとしての連携が強化出来た。

２．認知症に関わる資格取得（2名）

・認知症実践リーダー研修、実践者研修各１名ずつ資格取得。

Ⅴ　地域目標の評価

１．運営推進会議の開催

・定期的（2ヵ月に１回）に運営推進会議を開催し、入居者の状況や行事、事故、苦情を報告した。事故対策や食事摂取等意見を頂いた中でサービスの向上に努めるよう検討した。

２．地域を含めた防災訓練の実施

・地区消防団９名の協力のもと夜間想定避難訓練を実施した。（6月）
今後も、地域住民との訓練を計画していく。

３．地域のニーズを理解し、地域と関わり暮らし続ける事で必要とされる事業所を目指す（地域行事、地域交流会への参加）

・定期的に行われる地域交流会の参加者は同じような方の参加ではあったが、楽しみの一つにもなってきている。又、参加されるご利用者とも顔馴染みになってきた。
地域の演芸や会議、レクリエーション練習の場等としての提供の希望があった。

Ⅵ　業務目標の評価

１．働きやすい環境整備

・職員同士が普段から何でも言い合える関係を築き、働きやすい環境を整備した。

２．安定的経営を目指す（入院者を出さない）

・年間入院日数・・１０８日

・退所（死亡）による空室日数　・・３２日

３．経費3%削減（節電・節水・物を大切にする）

・光熱費等３パーセント削減には至らないが、畑の野菜の収穫等楽しみながら、経費節減に努めた。

平成２７年度　賀茂保育園　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

平成２７年度から子育て関連３法(子ども・子育て支援法、認定こども園法一部改正法、子ども・子育て関係整備法)が施行され、新しい子ども・子育て支援制度が始まった。

新しい制度では、保護者の就労状況によって入所の必要度を設定し、「保育短時間園児」と「保育標準時間園児」とに区分分けされた。

当初は、園児の区分分けに加え、園児数が減少したことによる運営費の収入減が懸念されたが、社会保障と税の一体改革の流れを受けて、保育単価が改訂され、処遇改善等加算が措置されたことにより、収支の均衡を保つことができた。

三朝町からの管理委託も８年目となり、職員の保育技術の向上がみられるようになり、より質の高い保育・教育の推進ができるようになってきた。これらにより、町内３園による公開保育研究会を発案するまでになり、三朝町全体の向上を図る気運づくりにも貢献できた。

保護者・地域住民・関係機関の方々からは、好意的に理解と協力を得ることができ、円滑な園運営に大きく寄与していただいた。また、多種多様な交流にも協力していただき、園児の豊かな人間形成を図ることができた。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．国の法令・基準・指針，及び県や町の条例等に基づき，公平公正に保育を行うと共に，子どもの最善の幸福を願い，家庭・地域社会との一体化を図っていく

・国の法令・基準・指針及び県や町の条例等に基づき、公平公正に保育を行うと共に、子どもの最善の幸福を願い、家庭・地域社会との一体化を図ることができた。

２．園児が深い愛情と信頼の中で，創造性を育み，探究心を高め，伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう，人的・物的環境を整えていく

・園児が深い愛情と信頼の中で、創造性を育み、探究心を高め、伸びやかに楽しく主体的に成長することができるよう、人的・物的環境を整えることができた。

Ⅲ　サービス目標の評価

新規の事業はなく、昨年度の保育内容を継続する形となった。それぞれの事業での利用実績は次の通りである。

(1) 通常保育事業

総利用者数　１，１１０人(昨年度は１，２１９人、一昨年度は１，３１８人)

月別初日在籍園児数（利用者数）　単位　人

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
88	89	90	90	91	91	93	94	96	96	96	96

(2) 特別保育事業

①　一時保育事業　総利用者数　４３人(昨年度は９２人、一昨年度は５６人)

月別利用者数　単位　人

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月
1	0	0	0	2	1	3	4	2	1	2	27

②　障害児保育事業

軽度障がい児２人在籍。２人とも同じクラスであったため、加配保育士１人を配置した。

③　延長保育事業(自主事業)　　総利用者数　７２人(昨年度は３８人、一昨年度は８０人)

総稼働日数　５７日(昨年度は２７日、一昨年度は６３日)

月別利用者数　　単位　人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準児	3	1	5	5	10	2	9	5	5	1	4	8	58
早朝短時間児	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
夕方短時間児	2	0	0	0	1	0	2	3	2	0	0	1	11
合　計	8	1	5	5	11	2	11	8	7	1	4	9	72

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．優しさとたくましさを併せ持つ子どもの育成と養護・教育の一体化を図る保育技術を高めるとともに、保護者の悩みや問題を受け止め、支援していく保育指導技術の向上を目指す

・園長研修会・主任保育士研修会・保育士研修会・公開保育研究会・食育講演会・人権教育研究会などに積極的に参加し、園運営の向上及び保育技術や保育指導技術の習得に努めることができた。（年間延べ２２１人参加）

Ⅴ　地域目標の評価

１．家庭や地域社会との連携を十分に図る

・町内他園との交流により、園長会・三朝町保育連絡協議会・調理員会への参加、食育・ノーテレビデーの推進など専門的に研究を深めることができた。（園長会・調理員会は毎月１回実施、他の会合は必要に応じ、年間数回開催した。）

・各地域協議会、老人クラブ、ボランティア団体との連携も図れた。（年間延べ７回実施）

・保護者研修会を開催し保護者の意識を高めることができた。

Ⅵ　業務目標の評価

１．人的・物的環境を整え，安全で信頼に満ちた運営を目指す

・人的・物的環境を整え、安全と信頼に裏打ちされた運営が推進できた。

２．思いやりの心を持ち、支え合い・助け合う人づくり、職場づくりに徹する

・理念や基本方針に基づき職員教育の徹底を図ることにより、知識や技能の習得のみでなく、相互に協力し合う体制づくりに努めたため、園としての保育理念や目指す子ども像実現へ向けての一致結束した取り組みができた。

３．保育課程を見直し、子どもの発達に即した適切な内容を体系立て、年間計画として整備する

・本年度は、保育課程の全体計画を見直し、特色ある園づくりを基本にして、本園独自の保育課程づくりに努力した。

年度中途の実践に於いて、課題だと認識した場合は年間計画書に印を付け、毎月の職員会にて議題として採り上げ、常に改善を目指した取り組みができた。

４．経営的に収支のバランスのとれた安定的な経営を目指す

・経営面では受入れ定員が１００人のまま変わらず、各月実績では最大利用人数が１００人に満たなかった。しかし、新子ども・子育て制度による保育単価が改訂され、処遇改善等加算が措置されたことにより、年度当初の予想よりは収支が均衡化した。

平成２７年度　認知症対応型通所介護事業　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

ご利用者の尊厳を大事にしながら住み慣れた地域で生活していただきつつ、ご家族と連携して生活を支えていった。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．尊厳を大切にし、ゆったりと過ごせる温かい家庭的な環境を提供するとともに、ご利用者一人ひとりの立場に立ったその人が望む生活を支援する

・ご利用者の希望に添った生活、手芸等特技を活かした関わり、個人のペースでゆったりと過ごせる生活空間の提供を行なった。

２．地域と連携を深め、触れ合いを大切にし、住み慣れた地域での社会参加を支援する

・地域交流会を通してご利用者も山田地区の方との交流が出来た。

○地域交流会年５回（延べ参加人数：12名）

○芋掘り・外食（回転寿司）・みささ美術館（各２名参加）

Ⅲ　サービス目標の評価

１．家庭的な環境のもと、ご利用者主体の支援を行ない、本人、家族の思いに寄り添うケアの実施

・家庭的な雰囲気をたもち、食事作りや味付け、食器の片付け等ゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりをした。又、ご家族とも連絡ノートを活用して連携を取り、生き生きとした生活が送れるよう、四季折々の個々での外出行事も実施した。

２．家族や他サービス事業所との連携を強化し在宅生活の維持を支援する

・体調の変化や気づいた事は、訪問看護、ご家族、三喜苑（デイサービス）へ報告、確認をとり、健康の維持を支援した。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員の資質向上を目指す

・レクリエーション研修等　業務に活かせる研修を随時受けた。

・普段から言葉使いには気をつけて関わるようにした。

Ⅴ　地域目標の評価

１．地域を含めた防災訓練の実施

・日中想定避難訓練をグループホーム仁の里の方と一緒に実施（10/26：３名参加）

２．地域のニーズを理解し、地域と関わり暮らし続ける事で必要とされる事業所を目指す（地域行事・地域交流会への参加）

・地域交流会を通してご利用者も山田地区の方との交流が出来た。

○地域交流会年５回（延べ参加人数：12名）

Ⅵ　業務目標の評価

１．働きやすい環境整備

・業務改善し、残業がなくなり働きやすい環境づくりを実施した。

２．安定的経営を目指す（延べ人数月５０人以上）

・体調不良等で休みが続き利用につながらない月もあったが、ほぼ５０人以上は利用された。

（入院者なし　延べ人数555人）平均46.25人

平成２７年度認知症デイサービス利用者数（＊延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	54	50	50	55	52	50	56	47	47	48	50	50	555

（平成２６年度延べ利用者数：２６０人）

３．経費 3%削減

・光熱費等３パーセント削減には至らないが、畑の野菜の収穫等楽しみながら経費節減に努めた。

平成２７年度　指定通所介護事業所（三喜苑西郷）事業報告

Ⅰ　平成27年度の状況

法人として初めて倉吉市でデイサービス事業を開始した。利用者の半数は倉吉市から来られている。徐々にではあるが倉吉市内の地域包括支援センターや各病院内地域連携室等にも三喜苑西郷が浸透し、紹介・利用につながりつつある。利用者の自立を促し支援していくスタンスをもとに、サービスを提供し、生活改善につながっている。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．在宅生活継続の支援

個別援助計画に沿った関わりにより介護度が改善されたケースが２件あった。

２．利用者の尊厳を重視した利用者主体のサービスの実施

職員間で日々意見を交わし、利用者一人ひとりへの理解を深め、ケア方法を考えながら多種多様（おやつ・みそ汁作り、絵手紙、写経、囲碁、トランプ、パズル、園芸等）なレクリエーション活動の展開に努めることができた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．個別性の重視

・利用前にしっかりとアセスメントし、その後に状態変化があれば追記し状況把握に努めた。

・利用者との関わりを深くもてるよう連絡帳の活用、必要に応じて電話、送迎時の報告・相談を行い、利用者・家族への「目配り・気配り・心配り」を大切にしながら、信頼関係が構築できるよう努めた。ご家族の都合や通院により振りかえの希望があった時は積極的に受け入れを行い対応した。

・毎月提供実績とモニタリング用紙を各事業所へ直接届け、顔の見える関係づくりに努めた。担当ケアマネジャーへの報告・連絡・相談も密に行い、利用日の変更や追加、緊急利用等の要望に対応した。また、利用者の活動写真を掲載したデイ新聞を２回発行・配布し、情報提供した。

２．機能維持を図る

・来苑時の体調確認、入浴時の身体状況の確認、日中の様子観察に気を配り、体調変化に素早く気付き、訪問看護ステーションみささと連携を図りながら健康維持に努めた。また、活動意欲を高めたり楽しみを持っていただけるよう、利用者の視点に立ったサービス（買い物、外出等）を提供する事により精神面への働き掛けもできた。

・活動プログラムに「今月の体操」を取り入れ、自宅で手軽にできる体操や運動の指導を行った。利用者より「家でもしている」との声が聞かれるようになった。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．職員研修会の実施（年６回実施）

・年５回の研修会（接遇、レクリエーション、緊急時の対応、感染症対策、リスクマネジメント）を実施した。研修会を通じて不安や困りごとを話し合える機会にもなった。

2．資格取得の推進

・認知症実践者研修２名、防火管理者１名取得し専門性を高めた。全職員が認知症研修修了者となり、利用者としっかり向き合い、今までの生活習慣を尊重しながら支援を行うことができた。

Ⅴ　地域目標の評価

1．地域の方との交流会の実施

・伊木地区の奉仕作業に参加し、地域住民の方と交流を図り関係を深めることができた。通学路に面しており小学生の児童が気軽に「ただいま」と訪ねてくることが多く、利用者との交流にも繋がっている。また、隣接している如心庵行事（夏祭り、クリスマスコンサート等）に参加させていただき、利用者と地域の方との交流を図ることができた。

Ⅵ　業務目標の評価

1．収入月額200万円以上を目標とする

・毎月各事業所を訪問し紙面を用いて空き情報の提供や、7月倉吉市地域包括支援センター（16名）、2月ケアマネ協議会役員会（11名）の施設見学の受け入れを行う等新規利用者獲得への努力を行った。稼働率は徐々に上がってきているが収入月額200万円以上の目標を達成することはできなかった。施設の特色、強みを知ってもらう等の営業が十分にできなかったため、今後は営業の強化が課題となり、地域の事業所との連携を深めていかなければならない。

2．自動車事故を起こさない

・送迎対応表（地図、注意事項、対応方法等）を作成し変更点があれば随時更新を行い、全職員が同じ対応で安全な送迎に心掛けた。

・毎日ミーティングに取り組み、全職員が一日の気付きを報告し情報の共有を図り、統一した安心で安全な送迎を行えた。

3．経費削減

・職員の一日の動きや休憩時間等の見直し、改善を図りながら、研修と会議以外の残業はなかった。

・毎月チェック担当者が確認を行い管理し、節約に努めた。

利用状況（平成27年度）

項目/月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働日数	21	22	22	21	22	22	21	23	20	21	23
利用延人数	23	56	80	101	115	146	134	185	163	174	222
利用実人数	6	11	14	12	12	15	17	22	23	23	30
1日平均数	1.1	2.5	3.6	4.8	5.2	6.6	6.4	8.0	8.2	8.3	9.6
稼働率（%）	7.30	16.9	24.2	32.0	34.8	44.2	42.5	53.6	54.3	55.2	64.3
自立延人数	8	11	13	15	13	25	28	39	21	24	27
自立実人数	3	3	6	6	6	8	7	6	5	5	7
日中一時延人数	0	0	0	4	4	3	1	5	0	4	5
日中一時実人数	0	0	0	1	1	1	1	1	0	1	1

平成２７年度　指定居宅介護支援事業 事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

平成 27 年度介護報酬改定により、基本報酬の見直し、特定の事業所の偏りによる対応強化、居宅事業所評価の見直しがあった。「地域包括ケアシステム」の中で、利用者の尊厳を旨とした自立支援に資するケアマネジメントを実践できる資質が求められている。選ばれる事業所かつ介護支援専門員となるために、事業所として、又介護支援専門員として更なる資質の向上を図ることを目指し、同時に三朝町という地域とのつながりが強い事業所となる取り組みを行った。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．利用者の自立を支援できるケアマネジメントを行えるようにする

・利用者の自立を支援できるケアマネジメント（介護計画作成）を行えた。

２．在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域住民の方々・関係機関等との連携を深める

・在宅の高齢者を地域で支えられるように、地域機関等との連携を深める取り組みを行った。

３．利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進める

・利用者の確保を図りつつ、業務の効率化を進めた。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．利用者の自立支援できるケアプラン作成ができるようになる

・利用者の自立を支援できるケアプラン（介護計画）作成ができるように取り組みを進めた。

・リハビリのケアプラン（介護計画）作成の勉強や見直しを図った。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．研修等に積極的に参加して得たことを、自分の業務やケアマネジメントに活かし評価する

・研修等に積極的に参加し、自分の業務に活かす努力をした。

・事業所内勉強会を実施した。（５回）

・各自が研修に参加した。（地域包括連絡会 4 回、介護支援専門員連絡協議会開催の研修や意見交換会７回、対人援助基礎研修会１名、社会福祉主事任用資格取得研修（年間）１名、成年後見人養成研修（年間）１名）

Ⅴ　地域目標の評価

１．利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、関係機関・住民の方々とのつながりを作る

・利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、関係機関・住民の方々と連携を図った。

・三喜苑が担当している利用者の住む地区の民生委員への挨拶回りを行った。

・町内福祉事業所等の集まりである「三朝をなんとかしよう会」の取りまとめを実施し、参加した。

・谷口病院との勉強会に参加した。

Ⅵ　業務目標の評価

１．利用者の確保

要介護：目標７５件・実績月平均７６．１件（平成２６年度実績：７１件）

要支援：目標３０件・実績月平均３５．５件（　　〃　　：３２件）

２．残業を減らす

・業務の見直しを行ったが、利用者増もあり減らすことはできなかった。

３．介護報酬改定の対応

・法改正や個人番号制度開始に伴う変更等あり、その都度確認し、対応した。

平成２７年度　訪問看護ステーション　事業報告

Ⅰ　平成２７年度の状況

平成２７年度の利用者・収入は、前年度に比べ大幅に減少した。利用者の入院、施設入所などもあったが、２４時間対応体制を再開できなかったことも大きな要因であった。

地域や利用者等のニーズ、地域医療の現状、職員体制、経営の効率化と安定的経営等について検討を重ねた結果、平成２８年３月３１日をもって「事業休止」することを決定した。

Ⅱ　基本方針に対する評価

１．在宅療養が継続できるように重症化予防とリスク管理をして、長く在宅生活が送れるようにする

・長年の利用者もおられ、重症化予防とリスク管理に努めた。

２．きめ細やかな対応と質の高い看護を提供する。必要であれば理学療法士や作業療法士による訪問リハビリの導入を検討する

・理学療法士、作業療法士による訪問リハビリの必要性は感じたが、導入には至らなかった。

３．地域の関連機関と連携を密にし、選ばれる訪問看護ステーションを目指す

・以前の利用者家族から訪問看護の依頼もあった。ケアマネジャーからの紹介もあり選ばれるステーションであったといえる。

Ⅲ　サービス目標の評価

１．専門性を高め、質の高い看護を提供するために、マニュアルの見直しと作成をし、チームで統一した看護を提供する

・マニュアルの見直しをした結果、作成は必要なかった。

２．ケース検討会を充実し、提供している看護の振り返りをしながら、在宅療養者中心の看護を提供する

・対応に困るケース、悩んだケースについては頻回にケース検討会をし、状態にあった看護の提供をした。

３．在宅療養者の生活を支援するため、２４時間対応体制の提供に向けた取り組みや体制整備をする

・２４時間対応体制に必要な人員の確保（看護師配置）が出来ず、体制整備には至らなかった。

Ⅳ　能力開発目標の評価

１．得意分野の資質向上及び最新看護を習得するため、各種研修に参加する（１人１研修）

・全員が１研修以上参加した。

Ⅴ　地域目標の評価

１．行政機関、福祉サービス機関、医療機関に毎月情報提供するとともに、カンファレンスに参加して訪問看護の資質向上と連携を図る

・カンファレンスに参加し資質向上につなげた。

２．アンケートを実施し、在宅療養者に望まれる訪問看護ステーションを検討する

・アンケートの結果、利用者・利用者家族との良い信頼関係が出来た。

３．地域交流会で地域と交流し、より一層地域との信頼関係を構築していく

・交流会は開催したが、参加者、人数が限られており、信頼関係を構築したとは言いがたい。

Ⅵ　業務目標の評価

１．利用者数の定着（看護師：利用者＝１：１０）目標３０人

・実績１８人

２．一ヵ月利用回数の定着（１日あたり８件２５日として）目標２００件（１人あたり６６件）

・実績１２０件（１人あたり４０件）

３．一ヵ月の収入（１件あたり 8,000 円として）目標１６０万円

・実績１００万円